

# 本学栄養学科第一期生の学習成果および進路に関する調査

## SURVEY ON THE LEARNING OUTCOMES AND COURSE OF STUDY OF FIRST YEAR NUTRITION STUDENTS AT THIS SCHOOL

高泉 佳苗      後藤 未希      平澤 和樹      佐藤 玲子  
Kanae TAKAIZUMI      Miki GOTO      Kazuki HIRASAWA      Reiko SATO

キーワード：栄養士養成校、学習成果、進路、目標、成長実感

Key words : Nutritionist vocational school, learning outcomes, course of study, objectives, sense of progress

### 要 旨

2015年度栄養学科入学生を対象に入学時と卒業時にアンケート調査を実施した。調査内容は、学習成果の自己評価、成長の実感、進路に関する項目である。調査の結果、卒業時の学習成果の自己評価は実践力が高く、基礎力が低いことが示された。また、卒業時に成長を実感していた学生は80.6% (n=54) であった。「栄養士免許を生かした職業に就きたい」と回答した学生は入学時49.4% (n=39) から卒業時70.1% (n=47) に有意に増加していた。

### Abstract

We conducted a survey on new nutrition students in the 2015 academic year at the time of enrollment and again at graduation. The survey consisted of questions on the students' self-assessment of learning outcomes, sense of progress, and course of study. At graduation, self-assessment of learning outcomes was high for practical skills and low for basic skills. Furthermore, 80.6% (n=54) of students felt a sense of progress in their studies. At enrollment, 49.4% (n=39) of students indicated a desire to “use their nutritionist license for future employment” and this rose significantly at graduation to 70.1% (n=47) of students.

## I. はじめに

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」(2014年12月答申)<sup>1)</sup>では、学生が大学において育成すべき力を確実に身に付けるために、大学教育は「教員が何を教えるか」よりも「学生が何を身に付けたか」を重視し、学生の学習成果を把握・評価することが必要であると述べている。

本学栄養学科は2015年度に開学し、2017年3月に第一期生が卒業した。本学第一期生が2年間の短期大学における学びの結果として、自身の学習成果や成長をどのように感じたのだろうか。また、本学科の教育は、卒業生の将来に向けた目標形成や進路決定にどう関わることができたのだろうか。その実態を把握することは、本学科の教育効果の評価や今後の教育内容の改善に向けた取り組みを考えていくための資料となる。

本調査は、本学科第一期生を対象にアンケート調査を実施し、卒業時の学習成果や成長の自覚、進路や将来に向けた目標形成の実態を調査したので報告する。

## II. 対象者および調査方法

2015年度栄養学科入学生を対象に入学時と卒業時にアンケート調査を実施した。各アンケート調査は授業時間に実施し、当日授業に出席した学生に対してアンケートを依頼した。入学時のアンケート調査は2015年6月に実施し、79名から回答を得た(回収率100%)。卒業時のアンケート調査は本年度卒業見込みの学生(留年生は調査対象から除外した)を対象に2017年1月に実施し、67名から回答を得た(回収率99%)。対象者の特徴は表1のとおりである。

アンケートは無記名で行い、実施にあたってはアンケートの目的、アンケートは任意であり回答しないことによる不利益は一切生じないこと、回答者の特定はしないこと、アンケート結果は本学研究紀要に掲載予定であることを口頭およびアン

表1 対象者の属性

	入学時 (n=79)	卒業時 (n=67)
	n (%)	n (%)
性別		
男性	9 (11.4)	7 (10.4)
女性	70 (88.6)	60 (89.6)
年代		
10代	69 (87.3)	12 (17.9)
20代	8 (10.1)	52 (77.6)
30代	1 ( 1.3)	2 ( 3.0)
40代	1 ( 1.3)	1 ( 1.5)
出身地 <sup>1)</sup>		
宮城県内	49 (62.0)	40 (60.6)
宮城県外	30 (38.0)	26 (39.4)
本学科は第何志望か <sup>1)</sup>		
第1志望	52 (65.8)	44 (66.7)
第2志望	21 (26.6)	14 (21.2)
第3志望	3 ( 3.8)	4 ( 6.1)
その他	3 ( 3.8)	4 ( 6.1)

<sup>1)</sup> 卒業時のみ欠損値1名

ケートの表紙に明記した。回答にあたっては、調査の趣旨を理解し、本調査に同意する場合に回答するよう依頼した。アンケートには表紙を付け、回答の有無が第三者にわからないように配慮した。

## III. 調査内容

本調査の調査項目と回答は表2のとおりである。

### 1. 学習成果

本学では学習成果を基礎力、実践力、人間関係力、生涯学習力、地域理解力という5つの力で示している。本学科の学習成果は表2(質問1)のとおりである。卒業時の学生自身による学習成果の自己評価を把握するために、各学習成果について「とてもそう思う(5点)」、「ある程度そう思う(4点)」、「どちらとも言えない(3点)」、「あまりそう思わない(2点)」、「全くそう思わない(1点)」の5件法で回答を得た。学習成果は5つの力ごとに合計し、基礎力(A+B)、実践力(C+D)、人間関係力(E+F+G)、生涯学習力(H+I)、地域理解力(J+K)をそれぞれ得点化した。

表2 質問項目と回答

質問項目	回答
質問1 次のA～Kについて、今のあなたの自身の状況をどう思いますか。A～Kそれぞれについて、あてはまるもの1つに○を付けてください。 【基礎力】栄養に携わる者に求められる専門的知識・技術を習得している。 A 栄養士の基礎となる教養と知識を身につけている。 B 基本的な調理技術を習得し、給食施設の利用者の特性に応じた献立作成スキルを身につけている。	1. 全くそう思わない／2. あまりそう思わない／3. どちらとも言いえない 4. ある程度そう思う／5. とてもそう思う
【実践力】健康や生命を預かる栄養現場において、栄養管理に携わり、衛生管理を行う者としての責任と自覚を身につけ、主体的に考え行動することができる。 C 栄養士は食事提供を通じて対象者の健康や命を問わずかかっていることを自覚している。 D 事故を起こさないよう責任を持って衛生管理および栄養管理を行うことができる。 【人間関係力】社会人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を身につけている。現場において他の専門職者等と協働することができる。 E 誰とも挨拶ができ、広い心を持って他者に接することができる。 F 社会や職場に必要なコミュニケーション能力を身につけている。 G 栄養士業務における他職種との協働や連携の必要性がわかり、課題や問題について他者と協働し解決することができる。 【生涯学習力】生涯にわたり専門知識・技術を学び続けることができる。 H 栄養や健康に関する動向や新しい情報に関心をよせ、情報収集を行うことができる。 I 自己の課題を見つけ、その課題解決に向けて努力することができる。 【地域理解力】地域の特徴を理解し、食を通じた地域貢献ができる。 J 地域の食文化や健康課題を理解し、地域の特徴に応じた食事づくりや健康づくりに携わることができる。 K 栄養士としての職業的使命感を持って、地域貢献のために積極的に行動することができる。	1. とても成長したと思う／2. ある程度成長したと思う／3. どちらとも言いえない 4. あまり成長していない／5. 全く成長していない 1. 難しい授業を理解しようと努力したこと／2. 素晴らしい授業に出会えたこと 3. 授業の課題で難しいテーマママチャレンジしたこと／4. 先生から直接指導を受けたこと 5. 尊敬できる先生に出会えたこと／6. 学外のコンテスタ、大会への参加 7. 学園祭などの学内行事の企画・運営を行ったこと／8. 学内の友人との人間関係 9. 趣味の活動／10. アルバイト／11. 就職活動／12. その他 1. 栄養士免許を生かした職業に就きたい 2. 栄養士にはこだわらず、本学で勉強したことが生かせる職業に就きたい 3. 職種や仕事内容にこだわらず、とにかく就職したい 4. 栄養士の職につき、3年間の実務経験の後に管理栄養士の国家試験を受験したい 5. 管理栄養士の養成校に編入学したい／6. 管理栄養士養成ではない四年制学部に入りたい 7. 専門学校に進学して、さらに専門的な技術を身につけたい／8. その他 1. 持っている／2. どちらとも言いえない／3. 持っていない 1. 演習形式の授業(栄養基礎演習・栄養総合演習)／2. 講義形式の授業／3. 授業(実験関係) 4. 授業(実習関係)／5. 校外実習／6. 就職活動／7. 教員／8. 学外コンテスタへの参加 9. 学園祭などの学内行事／10. 学内の友人・後輩との関わり／11. アルバイト 12. その他／13. 目標形成につながるようなことは何もなかった
質問2 あなたは本学での2年間の短大生活を通じて成長できたと思いますか？ 最もあてはまるもの1つに○を付けてください。	
質問3 成長のきっかけとなったことは何ですか？ 下記の1～12であてはまるものに○を付けてください(複数回答可)。	
質問4 卒業後は、どのような道に進みたいと考えていますか。あるいは、今現在も考えていますか。1～8であてはまるものに○を付けてください(複数回答可)。	
質問5 現在、あなたは将来に向けた明確な目標を持っていますか？	
質問6 本学科在籍中にあなたの目標形成に影響したことは何ですか。1～13であてはまるものに○を付けてください(複数回答可)。	
質問1、2、3、5、6は卒業時アンケートにて調査した。 質問4は入学時および卒業時アンケートにて調査した。	

## 2. 成長の実感と成長のきっかけ

成長の実感と成長のきっかけについては、卒業時アンケートで調査した（質問2、3）。「あなたは本学での2年間の短大生活を通じて成長できたと思いますか」と質問し、「とても成長したと思う」～「全く成長していない」で回答を得た。「とても成長したと思う」、「ある程度成長できたと思う」を“成長の実感あり”とし、「どちらともいえない」、「あまり成長していない」、「全く成長していない」を“成長の実感なし”とした。

さらに、成長のきっかけについて調査した。「成長のきっかけとなったことは何ですか」と質問し、「授業の課題や難しいテーマにチャレンジしたこと」、「学園祭などの学内行事の企画・運営を行ったこと」、「就職活動」などの12項目を調査した。

## 3. 進路

### 1) 進路希望

短期大学卒業後の進路について、どのような道に進みたいと考えているかを入学時と卒業時に調査した（質問4）。進路は、「栄養士免許を生かした職業に就きたい」、「職種や仕事内容にこだわらず、とにかく就職したい」、「管理栄養士の養成校に編入したい」など8項目を調査した。

### 2) 目標形成

将来に向けた明確な目標の有無を卒業時に調査した（質問5）。質問は「現在、あなたは将来に向けた明確な目標を持っていますか」とした。回答は「持っている」、「どちらともいえない」、「持っていない」とした。集計の際は、「持っている」と回答した者を“目標あり”とし、「どちらともいえない」、「持っていない」と回答した者を“目標なし”とした。

さらに、「本学科在籍中にあなたの目標形成に影響したことは何ですか。」と質問し、「演習形式の授業」、「校外実習」、「教員」など12項目を調査した（質問6）。

## IV. 分析方法

学習成果（A～K）の自己評価の回答は単純集計を行った。さらに、短期大学における2年間の学びによる成長の実感や目標形成が学習成果に影響しているかどうかを検討するために、成長の実感の有無および目標の有無と学習成果の5つの力（基礎力、実践力、人間関係力、生涯学習力、地域理解力）との関連を検討した（Mann-Whitney検定）。

本学科での2年間の短大生活で成長を実感している学生における成長のきっかけについては、単純集計を行った。また、将来に向けた明確な目標を持っている学生における目標形成に影響したことについて単純集計をした。

入学時と卒業時の進路の変化を検討するために、 $\chi^2$ 検定またはFisherの直接法によりそれぞれの割合の差を検討した。なお、入学時の調査結果には、卒業時の調査対象となっていない留年生と退学者の回答が含まれている。

解析ソフトはIBM SPSS Statistics 24を使用し、統計的有意水準は5%未満とした。

## V. 結果

### 1. 学習成果の自己評価（図1）

学習成果（A～K）について「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」と回答した学生の割合は、基礎力にあたる「A：栄養士の基盤となる教養と知識を身につけている」が46.3%、「B：基本的な調理技術を修得し、給食施設の利用者の特性に応じた献立作成スキルを身につけている」が47.8%と低かった。一方、実践力にあたる「C：栄養士は食事提供を通じて対象者の健康や命をあずかっていることを自覚している」が91.0%、「D：事故を起こさないよう責任を持って衛生管理および栄養管理を行うことができる」が79.1%、生涯学習力にあたる「H：栄養や健康に関する動向や新しい情報に関心をよせ、情報収集を行うことができる」が79.1%と高かった。

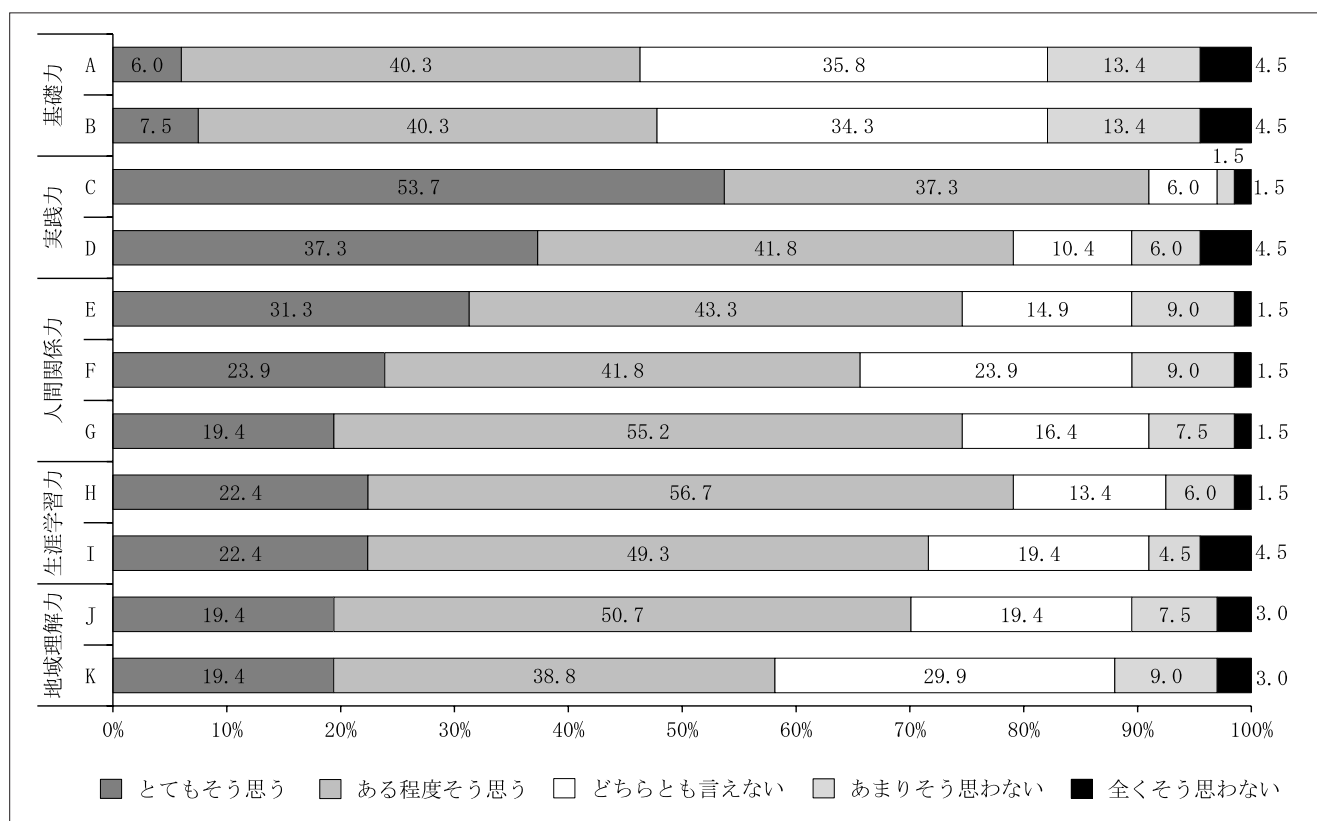


図1 学習成果の自己評価（単純集計）

2. 成長の実感と学習成果の自己評価との関連および成長のきっかけ（図2、表3）

本学での2年間の短大生活を通して、成長を実感していた学生は80.6%（54名）であった（とても成長できたと思う17.9%、ある程度成長できたと思う62.7%）。成長の実感と学習成果との関連

を検討したところ、成長を実感していた学生の基礎力、実践力、人間関係力、生涯学習力、地域理解力が有意に高かった（図2）。成長の実感がある学生の成長のきっかけは、「学内の友人との人間関係」77.4%、「アルバイト」49.1%、「就職活動」41.5%であった（表3）。

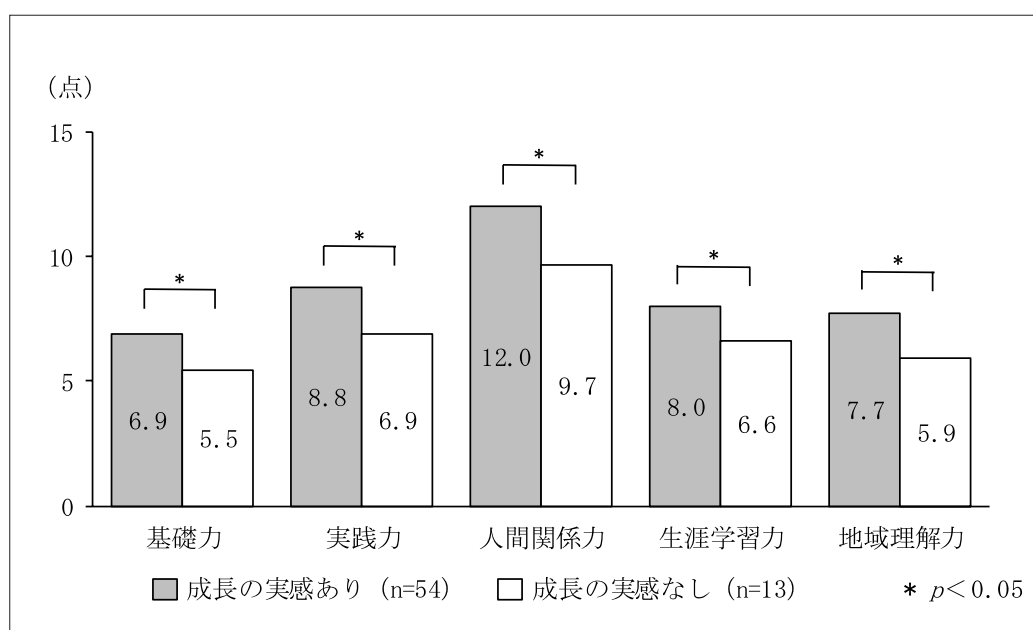


図2 成長の実感の有無と学習成果の自己評価との関連

表3 成長を実感している学生における成長のきっかけ

	n (%)
難しい授業を理解しようと努力したこと	19 (35.8)
素晴らしい授業に出会えたこと	10 (18.9)
授業の課題で難しいテーマにチャレンジしたこと	7 (13.2)
先生から直接指導を受けたこと	12 (22.6)
尊敬できる先生に出会えたこと	8 (15.1)
学外のコンテスト、大会への参加	1 (1.9)
学園祭などの学内行事の企画・運営を行ったこと	7 (13.2)
学内の友人との人間関係	41 (77.4)
趣味の活動	11 (20.8)
アルバイト	26 (49.1)
就職活動	22 (41.5)
その他	3 (5.7)

成長を実感している学生(n=54)の内、無回答を除く53名(複数回答可)

### 3. 目標の有無と学習成果の自己評価との関連および目標形成要因 (図3、表4)

卒業時に将来に明確な目標を持っている学生(目標あり)は41.8%(28名)であった。将来に向けた明確な目標の有無と学習成果との関連を検討したところ、目標を持っている学生の基礎力、人間関係力、生涯学習力、地域理解力が有意に高かった(図3)。2年間の在学中に目標形成に影響したことは、「授業(実習関係)」57.1%、「校外実習」50.0%、「演習形式の授業(栄養基礎演習

・栄養総合演習)」39.3%、「就職活動」39.3%であった(表4)。

表4 目標を持っている学生における目標形成要因

	n (%)
演習形式の授業(栄養基礎演習・栄養総合演習)	11 (39.3)
講義形式の授業	4 (14.3)
授業(実験関係)	6 (21.4)
授業(実習関係)	16 (57.1)
校外学習	14 (50.0)
就職活動	11 (39.3)
教員	5 (17.9)
学外コンテストへの参加	0 (0%)
学園祭などの学内行事	2 (7.1)
学内の友人・後輩との関わり	9 (32.1)
アルバイト	9 (32.1)
その他	2 (7.1)

将来にむけた目標を持っている学生28名(複数回答可)

### 4. 入学時と卒業時の進路希望の変化(表5)

入学時は「栄養士免許を生かした職業に就きたい」と回答した学生は39名(49.4%)であったが、卒業時は47名(70.1%)と有意に増加していた(p=0.01)。統計的な有意差は見られなかったが、「管理栄養士の養成校に編入学したい」が入学時6名(7.6%)から卒業時2名(3.0%)、「栄養士の職につき、3年間の実務経験の後に管理栄養士の

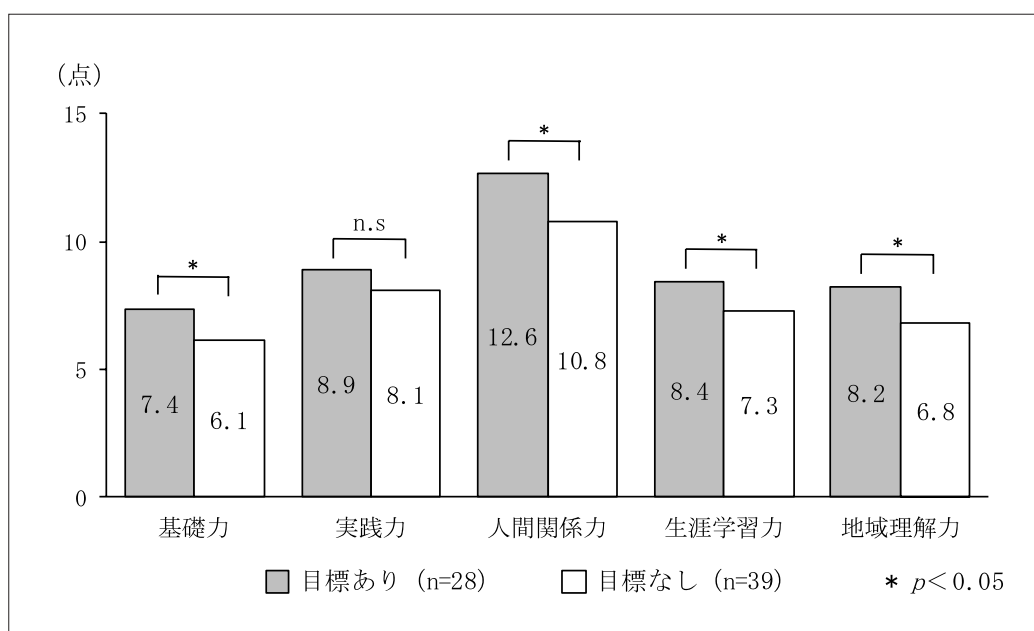


図3 将来に向けた目標の有無と学習成果の自己評価との関連

表5 入学時と卒業時の進路希望の変化

	入学時 (n=79)	卒業時 (n=67)	p 値 <sup>1)</sup>
	n (%)	n (%)	
栄養士免許を生かした職業に就きたい	39 (49.4)	47 (70.1)	0.01
栄養士にはこだわらず、本学で勉強したことが生かせる職業に就きたい	18 (22.8)	14 (20.9)	0.78
職種や仕事内容にこだわらず、とにかく就職したい	5 (6.3)	8 (11.9)	0.24
栄養士の職につき、三年間の実務経験の後に管理栄養士の国家試験を受験したい	42 (53.2)	34 (50.7)	0.77
管理栄養士の養成校に編入学したい	6 (7.6)	2 (3.0)	0.29
管理栄養士養成ではない四年生学部に編入学したい	2 (2.5)	1 (1.5)	1.00
専門学校に進学して、さらに専門的な技術を身につけたい	1 (1.3)	2 (3.0)	0.59
その他	3 (3.8)	1 (1.5)	0.63

<sup>1)</sup>  $\chi^2$ 検定または Fisher の直接法

国家試験を受験したい」が入学時42名（53.2%）から卒業時34名（50.7%）に減少していた。

## VI. 考察

短期大学での教育効果は、「学生が何を身に付けたか」が重要であり、学生の学習成果を把握・評価することが必要である。本調査は、学生の学習成果を学生の自己評価により検討した。調査の結果、実践力（C、D）と生涯学習力としての情報収集・処理能力（H）の学習成果が高く、基礎力（A、B）が低いことが示された。今後の教育課題として、基礎力が身につけられるような教育内容の検討が必要である。より確かな教育効果を把握・評価するためには、入学時と卒業時の変化を検討すべきである。しかし、本学の学習成果は、調査対象である第一期生が1年生後期の時に定められた。そのため、入学時における学習成果の状況を調査することができなかった。今後は、入学時と卒業時の学習成果の状況を比較し、本学科の教育効果を検討していきたい。

本学での2年間の短大生活を通して、成長を実感していた学生は80.6%（54名）であった。池内<sup>2)</sup>による全国の大学生を対象とした先行調査では、大学在籍中の成長実感が76%であり、この全国的な調査結果と比較して本学科第一期生は成長を実感している者が多かった。また、在学中に自身の成長を実感している学生ほど、学習成果が高いことが示された。最も多かった成長のきっかけ

は、学内の友人との人間関係であった。本学科は栄養士養成校であるため、実験や実習の授業が多いというカリキュラムの特徴があり、これらの授業ではグループ単位での学習時間が多い。このようなカリキュラムの特徴が学内での友人との関わりを深め、学生自身の成長実感へとつながったのかもしれない。学生の学習成果を高める上でも、授業を通じた学生同士の関わりが本学科の教育として大切であることが示された。

卒業後の進路について、「栄養士免許を生かした職業に就きたい」と回答した学生は、入学時（39名）から増加し、卒業時には70%以上（47名）の学生が栄養士として就職したい意向を示していた。入学時の調査対象者には留年生と退学者が含まれており、卒業時の調査対象者には留年生や退学者は含まれていない。このような調査対象者数の違いは、回答割合に影響する可能性があるが、留年生や退学者が入学時点でどのような回答をしたのかは不明である。結果として「栄養士免許を活かした職業に就きたい」者は、入学時39名から卒業時47名へと9名増加しており、このような進路希望の変化は、栄養士養成校として栄養士という専門職としての職業意識を育てることができた結果だといえる。一方で、管理栄養士のための国家試験の受験や編入学を目指す学生が減少していた。これは、実際の栄養士養成に関わる授業を通して、国家試験の難易度や合格率などの現実を知ったことによる意識の変化と推察される。

また、卒業時に将来に向けた明確な目標を持っている学生ほど、学習成果が高かった。自分の能力やスキルを高める目標（マスタリー目標）を持つことは、成績に好影響を示すことが報告されている<sup>3)</sup>。在学中に将来に向けた目標、特に自分の能力向上を目指す目標を持つことは、学習成果を高める上でも大切であることが示された。目標形成に影響した要因として多く回答されたものは、授業（実習）と校外実習であった。授業での実習科目は栄養士の直接的な業務やスキルを学ぶ授業であり、本学科のカリキュラムは実習科目を多く設置している。校外実習は特定給食施設で働いている管理栄養士や栄養士から現場で直接指導を受け、栄養士の実践教育の科目である。このような栄養士の実践的な体験が学生の将来に向けた目標形成につながっている可能性が示された。

## VII. まとめ

本学科の教育内容として、学内外での実習や実験は、学生の成長実感や将来に向けた目標形成につながっていることが示された。また、卒業時には70%以上の学生が栄養士として就職したい意向を示しており、栄養士養成校としての教育成果が確認された。さらに、本学科の教育によって、実践力や生涯学習力に関わる学習成果が得られている可能性が示された。一方で、基礎力に関わる学習成果が低く、今後の教育課題が明らかになった。

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会 (2014). 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～ (答申).  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf)  
(2017年3月2日アクセス)
- 2) 池内摩耶 (2015). 卒業時満足度調査2015  
77%の大学生が在籍大学に満足。その影響要

因を探る. リクルートカレッジマネジメント, 33(5): 66-71.

- 3) 田中あゆみ, 藤田哲也 (2003). 大学生の達成目標と授業評価、学業遂行の関連. 日本教育工学雑誌, 27(4): 397-403.